

(全般モニター使用) おはようございます。こうして傍聴席を見ますと、今日はなんか若妻学級のよりかただったっちゃうことでございますけれども、空席を省きますといつものとおおり、ほぼ満席の皆さま方の応援はして頑張ります。よろしく願いいたします。

時間が90分という限られた時間でございますので早速、質問に入ってまいりたいと思いますが。実はですね、5月10日の新聞ですね。武雄市タブレット端末配付と、来年度から小中全4,000人——4,200くらいですかね、ということですね。特にこれは、情報活用力、つまりタブレットによって、情報を引き出す。そういう学力向上を目指すということで書いてございます。

実は私もですね伊万里の問題かれこれの時には、自分の知恵がありませんので、インターネットを使ってですね、事務局にお願いしていろんな議事録——日本全国取れますからね、いろんな情報を引っばって、やっぱり頑張っていくんですね。そういう、その情報活力向上を目指すということでございます。

また一方ですね、佐賀県でも、教員採用試験に電子黒板という話が出ております。県が模擬授業で導入っちゃうことを書いてありますけども、電子黒板についても、以前、山内入れるときには——当時、民主党政権でしたかね。あまり賛成ではなかったんですね。やはり今からこういう時代になってくるということでございます。さらにはですね、佐賀大学ですけども、ここは教員養成が多うございますが、まず学生に慣れさせるということで、佐大でも4台の電子黒板を導入したということでございます。さらにですね、この電子黒板によりましてですね、遠隔授業ができるということですね。

例えば、病気で家にいたり、いろんな子どもがおっても、家で同じく授業ができるということ。そういう遠隔授業ができるんですね。引きこもりとか、いろんなところに役立つと思うんです。あるいはまた、これ少し経路が違いますが、県内3カ所と東京のIT企業が接続した。そして災害時にですね——これ市長さんですけども、災害時に学校と連絡ができるということを言われております。そこでですね——モニターをお願いします。こっち側ですか、はい。

そこでですね、教育長にお伺いですが、協議会座長の松原教授さんが、これまでの実績と前校長が導入を望んだんだと——武雄のことですけども。それで、武雄市が先鞭をつけて国全体の教育を動かしてほしいと、こう言われているんですね。市長さんは先鞭を打たずにもですね、走んさあばってんね。それで、松原先生のこの言葉をどのように受け止められるか、これを最初の質問としたいと思います。よろしく願いいたします。

○議長(杉原豊喜君)

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

武雄市が先鞭をつけて、国全体の教育を動かしてほしいという松原座長先生の言葉がござ

いました。子どもたちが生きるこれからの社会というのは、もう当たり前のように生活の中で情報端末を利用していくだろうということ、これを体験的に身につけておくと、情報を活用する力をつけておくと、いうことは不可欠なものだろうというふうに思われます。

それと世界的に見ましたときに、日本のICTの部分は非常に遅れている、立ちおくれている、という危機感が1つはございます。それからすでに端末を持ち帰って、学習利用している国も多々あるわけでありまして。そういう面で、遅れているという面での、先鞭をつけてということ。それからこれは文科省だけでなく、総務省も先頭に立ってされている。つまり国家的な施策として、戦略を早く打ち立ててほしい、という思いが背景にあるかというふうに思います。

それから松原座長と話す中で、非常に武雄市の期待、と申すことを申されます。それは2校で先導的に実施したことで、非常に先生方の力、考え方、あるいは子どもたちの対応力が、非常に積み重ねができていて、それからこの議会でもそうですけれども、市民の皆さんのITに関する考え方についても、他市と比べて非常に理解が高い、ということもおっしゃいます。それと、国家的であると同時に、佐賀県もまた知事、教育長はじめ、計画の中に入れてしていると、進めているという方向を強く出されているわけでありまして、その先鞭をつけて、という言葉の裏には、そういうことがあるかと、いうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今度のニュースにはですね市長さんね、言い方、悪いですけども、図書館の指定管理者以上の、それに匹敵すると言わんばいかんかわかりませんが、それ以上ですね、私はニュースだと思うんですね。

といいますのも、タブレットを買える家庭、買えない家庭、つまり貧富の差による学問の差をなくす、これは市長が常々言われておることですけども、実はアメリカで昔、パソコンがはやったころに、はやりだしですけども、これでますます格差社会が広がると言われたんですね。なぜか、小さいときからパソコンが与えられる家庭、買えない家庭とですね、どうしても学力差はついていくと。そういうことで貧富の差は広がる、と言われたぐらいなんです。そういうことでございますので、全部に与えるとは、非常によいことだと、図書館以上にね、と思うんですね。ぜひ、むちはうたんでよかけん先鞭をつけて、頑張ってくださいと思います。

それと、教育長さんね、タブレットを買える家庭、買えない家庭の生徒がいますね。そういうときに、生徒間でね、ゲームしたりなんたりするときも一緒ですけども、持っている人、持ってない人、これが差別、いじめにつながっていくちゅうんですね。どうしても子どもたちは。うちでも一緒ですよ、小さな孫ですけども、保育園と、小学生いますけれども、娘

がスマホ持っていますので、その奪い合い物すごいんですよね。「もう2台買ってやれ」と言わんばいかにくらいですね、保育園といえども私のパソコンをいじりまわすからね。だから、私は逆に壊されそうで心配なぐらい、子どもたちはすぐ覚えるんですね。だから、ぜひとも、こういうことはして、先鞭をつけて、頑張っていたいただきたいと思うところですけども、私は今回ですね、市長さんね、5つについて質問をしたいと思います。5点についてですね。

まず第1番目はiPad授業の成果と課題について。これ、教育長さん中心に質問してまいりたいと思います。これは導入後の成果、と通告しておりますけれども、それは山内東、あるいは武内小の実態についてですね。導入後の成果について質問をしたいと思います。私の2番目の質問は、お年寄りを狙う犯罪防止について。今、非常に送りつけ商法がはやっている。その危機感に対して、緊急対策の必要性、これについて、質問をしてまいりたいと思います。私の3番目はIT行政推進について、でございます。まず市役所職員の対応はどのようになっているのだろうか、という質問でございます。

さらには、3D思考、私しょっちゅう言います、XYZの話よくしますね。平面でなく、3D思考。つまり、北海道情報大学、行ったとき話しましたけれども、左側にパソコンがあって、右は図書館の自動貸し出し装置があったわけです。これ3次元ですね。そして、このパソコンが2次元です。このつながりですね。市長さん、ちょっと首かしげんでですね。

これは単純な話ですけども、子どもたちが絵日記をつけますね。絵日記というのは、きのう、おじいちゃんとお水鉄砲をつくりました、とかって書いてある。それ、絵に描いてありますよね。そして、文章に書いてある。つまり2.5次元と、私は思うんですけど、動くのをまだ絵に描いて、そして文章に出していくちゅうことね。このつながり。逆に芝居、映画も近いんですけど、これは本から入りますね。2次元の世界に脚色つけて、劇をしていくと。これが3D思考なんですけども。これについてお伺いしたいということですね。

それからもう1つ、ワンストップ行政。ワンストップ行政とは何十回も言いますが、市民の皆さんが市役所に来て、1カ所で直ちに仕事が済む。そういう行政を目指すべきではないかと、ずっと言っていますね。今のコンピュータを使えば、この前、テレビ出ておりましたけれども。1秒間に2億5,000万通りの判断ができるそうですね。これ、将棋等の戦い見られたことがありますか。将棋の名人とパソコンと戦った時の話ですけど、そのとき言われたものが、1秒間にですよ2億5,000万通りの判断ができる。これを使えば、市役所も大幅に変わるということで、ここ2年近く、話をしているところでございます。

私の4つめの質問は、ダイオキシン除去についてでございます。地球上から猛毒のダイオキシンをどのように除去していくか、ということで質問をしてまいりたいと思います。

5番目の質問は、武雄市図書館についてでございます。今全国どこ行っても、武雄市といえば「図書館すばらしかですね」と。この前、6月7日ですか、市長さん、東京の妹からメールが入ったんですけど、一面に載ったんですね。夕刊かなんかにですね。それくらい武雄

市といえば、図書館。図書館といえば、樋渡市長いうことですね。非常に、どこ行って—いやいや、どこ行ってもそうですよ。「すばしかなですね」と言われる。これ問題点もいろいろあるかわかりませんので、図書館について質問したい。

こういう5つほど、挙げております。

それでは最初の iPad 授業の成果と課題について、教育長さんにお伺いしたいと思います。これは山内東小学校ですね。ここに22年に iPad を40台。23年に山内東小学校106台、武内小学校90台を導入されたと、ね。そこでいろんなことがあったと思うんですよ。今後4,000台入れますので、保護者の不安や期待は、どのようなものがあったのか。解決策はどういうものか。あるいは成果。成果は教育長さんね、いっぱいあると思うんですよ。もういっぱい挙げられたら1時間過ぎますのでね。そこは取捨選択していただいて。特に私が心配なのは、不安なことかですね、課題があれば、お伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用）質問のちょっと前に、関連する部分がございますので、ここから御理解いただきたいというふうに思います。

これは、先々週に全国の教育長会がありまして、武雄市の図書館がずいぶん取り上げられておりました。これは文科省の生涯学習課の方が、説明される資料の中に——例えばここでは、観光客を取り込む——戻すのは——もう1枚。はい、すみません手が勝手に触れてしまいました。

観光客を取り込む図書館、その土地の魅力は、図書館を調べよう、とかですね、これも武雄市図書館であります。原研哉氏デザインののものも、これも武雄図書館でございます。

また、こちらのほうでカフェ図書館についてもそうです。

最終的にどういう言い方をされたかという、この右下でございますが、創造イノベーション。武雄市図書館は、図書館のイノベーションの代表例という言い方で話されたわけでございます。いずれにしても左上のこの「市民価値」という言葉が言われてまいりましたけれども、民間力とかから考える図書館構造、この中で図書館の価値というのが高まっている、ということをおっしゃったわけです。もちろんここに電子図書館についても触れられました。そういう中で、私はこの iPad の導入につきましても、まさにこうイノベーションの部分があるというふうに思っております。それは、2校で希望をして状況を判断した上で、総務省の事業を引き受けていただいたわけでございますけれども、本当に、子どもたちの集中度、意欲の面で、非常に強い成果が出ていると。まずその逸脱するものがないという状況がどの授業を見ても感じるわけです。

それから、先ほどおっしゃいましたように、子どもたちの機械への慣れが本当に早い。これはやっぱり、若いときにしておかなければいけない部分でもあろうかというふうに思います。

それから——先生方の授業のその構造は変えないけれども、時間的なメリットというのが、極めて高いと。例えば30人が自分がわかったか、わかっていないかというのをタブレットを打ちますと、先生の手元でわかるわけでありますので、その子のところにすぐ行けると。1時間経たった後でないと把握できなかった子どもの姿が、その時点で把握できて指導できると。こういうような極めて高いメリットがあるわけでございます。

課題についてもお尋ねがございました。これはタブレットだけでは、ただの箱なわけでありますので、そこに指導用のコンテンツを入れられないといけないわけです。指導用のコンテンツを入れるわけでありますが、これが若干時間がかかりますので、これまで議会にもお願いしましたように支援員さんに入ってもらって、そういうことは、そこは担任じゃなくて、支援員さんでしていただくということ。そこが一番大きいなあれで、具体的にですね、これが課題だ、という課題は浮かんでおりません。

授業を見ていただいたほうが一番わかるわけでありますが、1時間中使うわけじゃありませんし、先生方の1時間の流れの中で、ここで使うというメリハリがだんだん効いてまいりまして、そういう面では極めて長所が目立っているということでございます。

状況でございますけれども……

[23番「よろしいですよ、後で聞きますけん」]

よろしいですか。

[23番「はい」]

一番これまで聞かれたことは——端末にそれっきりになるんじゃないかということでございますけれども、これは、お互いの自分の考えを伝え合うときに活用している場面でありまして、交流も大事でありますので、当然そういう場面が設定されるということでございます。以上のようなところが長所及び短所かというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今全てを網羅して言われましたので、もう少し私小さく聞かんといかんですけれども。例えば、型破りだとか、あるいは発展的わくわく感とかですね。市民価値の向上に向かっていくっていう、これなんですね。やはり市全体がそのIT化に向かって進んでいるんだって市長の考えがですね、その場合のっていかないかんと思うんですね。

初日に市長さん言われましたように、今度からですよ、同時通訳というのですか。インターネットを持っている人は、タブレットにつないで、フェイスブックですかね——を開け

ば、今私が話していることも文字にこう出ているんですね。方言を使ってもそのまま方言で出っばってんですよ。なるべくきょうは標準語で話しますけれども。

そういうことで教育長さんね、後で言いますけども支援員ですね、そこら辺も踏まえて考えていかなければならないと思うんですけど。それはですね——これは教育長さん、御存じですか。きのうテレビの話やってみましたよね。誰かテレビ見られた方おられますか、テレビとか、冷蔵庫とか、500万も800万もしよったやつですよ。これはブラウン型テレビです。今、こがんもんは、これ見たことあるもん、知らんかわかりませんが、足が4本ついてたですね、これチャンネル。

こういうときにうちが購入したのがですね、私が中学2年のときだった。そして大阪万博の頃から天然色、昔はカラーテレビと言わなかったですよ、上田議員ね。うちのテレビは天然色ばい——とですね、っていったころですけども、このとき、親父が言うたこといまだに記憶して思うものは、テレビはね、思考力や想像力を低下させるんだって、親父はぼつりと独りごとと言うたんです。

例えば、美しい山と言ったときに、それまでラジオだと皆それぞれですね、あそこはきれいかったね、と思いながらラジオを聞くちゅうんです。しかしテレビであれば、美しい山って言った途端、一番美しいのは例えば富士山とかね、目に教えるわけですね。耳と目同時。さらに今は、これは8,848メートルですね。三浦雄一郎さん、エベレストですね。こういうのが出てきたり、また、あの美しい海と言ったときには、一番美しいというのは私が見てですけども、南国の海ですね。エメラルドグリーンのすばらしさ。特に、沖縄に行ったとき思うんですね。飛行機の上から見たとき、このすばらしい海で。これが、画一的に出てくるんですね。そこで、全てが、視覚、聴覚、全てが与えられると、個性がなくなるとの声がありますけども、このことについて、どのようにお考えか、答弁を求めます。

○浦郷教育長〔登壇〕

御指摘のように、映像の印象とかは非常に強いものでございます。そういう意味では、そういう御意見が出てくるのは事実かと思えます。ただ、この情報をそのまま与えるのではなくて、基本的に子どもたちが全部できないところは、この端末を使ってすると。

それから、考えが違うところは、先ほど言いましたように交流をさせると。そして最も自分が美しい山、美しい海だったらどういのを考えるのか、イメージするのか。あるいは、今ある場所で、そうならば、情報を今度は自分で検索すると。そういうふうなですね、いろんなこれまでになかった可能性というのが工夫できるんじゃないか、というふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今の言葉で非常に安心しましたですね。機材にですね、あくまでタブレットっていうのはツールで道具ですよ。道具として使う、いつの間にか使われるじゃなくてですね。そういうふうなものを、ぜひこれからもお願いしたいと思います。

これも通告しておりましたけど、保守料金。これ一番市役所で問題です。保守料金というのは、ハードウェアが壊れたり、システムに動作不良が見られた場合を想定してですね、前もって支払っておく料金のことですね。それで、この236台ですか、保守料金といわれるものですね、どのようにされたのか。あるいは、いくら払われたのか。答弁をお願いします。部長で結構ですけど。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

現在、山内東小学校、それから武内小学校で合わせまして236台のiPadがあるわけですけども、これに年間で194万円の保守料金を支払っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

保守料金についてですね、今後部長ね、お互いもう少し洗い直しが要ると思うんですね。このときまた、ぜひ一緒に教えてください。

それから、これイメージ図ですけども、朝日小学校ですね。朝日小学校、特別関係はないですね、学校ということで書きました。保護者の皆さんとか、あるいはまた、じいちゃんばあちゃんに聞くんですね。先ほど教育長の意見を聞いて、心配はないですよ。しかし、親御さんたちはこういう心配をしているっていうこと。○×方式が増える、どうかしれんけど、そうなるのではないかと。これが心配だと。いわゆる△。先ほどわからなかった人がですね、今まで、1時間後しか、授業終わった後しかわからなかった。しかし今はつぶさにわかるとおっしゃいましたけども。逆にですね、それを心配されているんですね。拾いあげてもらえない。いわゆる△。心が通い合う指導が得られにくのではないかとという心配なんですね。あるいは、また一緒のことですけども、子どもの個性と見た場合は、それが伸ばしてもらえるか心配だってですね。そして、それに対する先生の指導体制が不安だということですね。これは先ほど教育長に答えてもらいましたので、先生の指導体制ですね。ちゃんとサポーターを入れて、そこはツールの仕事をしてもらうのだ、という話をされましたので。全体的なことですけども、心配御無用と言われておりますけども、よければお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

(モニター使用)先ほど触れてない部分。先生方のことをちょっと触れていきたいというふうに思います。ICT教育を進める上で、絶対必要なのが、その機械とそれから先生の指導力、この2点が欠かせないことだというふうに思っております。

毎年3月に教員のICT活用指導力の状況というのを、文科省が調査をいたします。したがって、これはちょっと――紫が武雄市で、これは24年度。あとの赤と緑は――左、青が1年前の武雄市、23年度の武雄市、紫が24年度の武雄市でございます。あとはまだちょっと県、国の結果が出ておりませんので、昨年度と比べておりますが。

現在、電子黒板が約5割、学級に入っている状況でございますが、武雄市の先生方、非常にこの面で研修を積んでいただきまして、指導教材研究、指導の準備、評価などに活用する能力とか、ずっとありますが、このABCDE5科目において、ほとんど、国、県の他の先生方の指導力は高い数値を出していただいている。それから、これは中学校でございます。中学校にいたしましても、こういう高い指導力を身につけていただいている。

電子黒板とタブレットを同時に入れた場合は、非常にその対応が心配されてたわけですが、電子黒板を中心に、これだけ活用の指導力を高めてもらっているのです、タブレットが入ったにしても十分に対応できるであろうという判断をしたわけでございます。

そして、先ほど申しました、できるだけ、そのドリル的なことは普段以上にできるのは当然でございますけれども、それ以上に、子どもたちが自分の考えを持って交流する。あるいはこれを持って立ち上がれるわけでありますので、教室内を動き回ってすると。そういうタブレットならではの便利さというのが、今後十分考えられるだろうというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

次はですね、お年寄りを狙う犯罪防止についてということで、教育長ありがとうございました。移りたいと思います。

実は5月24日の「朝ズバッ！」みのもんたさんですけども、私はみのもんたさんから始まるんですが、狙われる高齢者、当初言いました、この送りつけ商法が今物すごく増えてるちゅう話ですね、増えてる。電話が鳴ると、ヒヤッとして、リーンって鳴っただけでもう気持ち悪うなってえすうなちゅうんですね。ヒヤッとすって言いんさあとですよ。そして、80年生きてきたけど、こんな思いをしたのは初めてだ。80年、きのうもテレビで83歳の方が知覧でね、出ておられましたけれども、80年というのは、日本の復興に一生懸命頑張っただけで今日をつくってきた人たちですよ。もうこいから年金生活でよかばい、安心して暮らせる、という人たちの狙いうちしよつとですよ、今。この送りつけ商法が。

その実態ですけども、送りつけ商法の相談件数ということで、出ていました。国民生活セ

ンターですね。2007 年が 1,767 件、08 年が 1,786 件。これ 1 年でですよ。2009 年が 2,028 件、10 年が 2,448 件、11 年が 2,727 件。12 年どんくらいと思いますか。これくらいでは止まらんですね。1 万 4,274 件です、12 年。じゃあ今年はどうかって、今年は 1 月だけですでに 1,942 件、これ、抜いとるです、1 年分を。2 月はですね 3,069 件、もうすでに全部を追い抜いてる。3 月は 3,868 件、4 月が 3,259 件、これだけでもすでに 4 カ月で 1 万 2,000 件ですよ。こういう事件が今あってるんですよ。それも、ここに書いてます、5 月 20 日現在の国民生活センター調べですけれども、70 才なら 40.2%。80 歳は 35.4、90 歳では 1.3 というつまり、70 歳以上は約 8 割だまされるんですよ。よく言われますように、送りつけ商法、いろんなものも一緒ですけども、身を守るためには、電話をきっぱり断る。おいどんでんけんとに、年寄りはないかなかできんです。きっぱり断る。商品が届いても、受け取り拒否ができてですよと、いらんですよ、と言えますと、言ってもなかなかできない。承知してしまってもクーリングオフができますよと。あるいは、また、消費生活センターや警察などに相談する。こういうことをほとんどお年寄りも知っとんさあと思うとですよ。

もう少し詳しくいきますと、電話できっぱり断る。これは電話で一度断っても、再度勧誘してくることは、法律違反ですよ。商取引法違反に禁止されている犯罪ですよ、これも。商品が届いても受取拒否をすることはできる。受け取り拒否しても、迷惑をかけることはなかなかですよ。代引き配達業者、宅配業者などに迷惑をかけることがなかけん、断りなさいと言っても、なかなかできないんですよ。あれまたクーリングオフ、これは署名を受け取った日から、8 日ですよ、8 日はクーリングオフすることができるちゅうことですよ。これは、みのもんたさんで紹介された、これ実筆で書いてありました。実例ですよ。〇〇日に届いたサプリメント、1 万 9,800 円についてクーリングオフをします。代金引換で支払った 1 万 9,800 円を速やかに返金してください。と書いて送ったところが、返ってきたという実例なんです。そこに、なかなか飛び込みきらんとですよ。先程言いました、電話で断る、受け取り拒否する、クーリングオフ、消費生活センターに相談する。わかっとってもなかなかできん。そこで、これは市としてもほっとかれんやろと。緊急課題として、周知徹底、それと防止策。例えば、そういう問題は市役所のどこどこに電話をかけて、専門をつくってですよ、それか何かをしてね、あれだけお年寄りがだまされている。これをなんとかしなきゃならないと思いますが、いかがでしょうか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

武雄市におきましては、消費生活に関する相談の窓口ということで、本庁の 1 階、案内のところに「消費生活センター」というものを設けております。専門の相談員が、面会とか、あるいは、来所できないという高齢者の皆さん方とか、そういった方については、こちらの

ほうから訪問いたしまして、相談を受けているという状況であります。議員さんおっしゃいました、送りつけ商法につきましては、武雄市におきましても、非常に急増をいたしてございまして、昨年までほとんどなかったんですけども、昨年の12月から、1ヶ月ごとに申し上げますと、1件、2件、4件、7件、5件、5件ということで特に2月、3月ぐらいから急増している状況であります。これもおっしゃいましたように、ほとんどが高齢者ということで、70代が10件、80代が10件と、90代の方もいらっしゃるということで、ほとんどが高齢者の方でございます。これは、あくまで相談があった件数ということでございますので、隠れた事案がかなりいっぱいあるんじゃないかというふうに思っております。こういうことから、5点申し上げますと、次のような啓発を行ってところでございます。

1つは、市のホームページとかケーブルテレビの市役所だより、こういったところで注意喚起をいたしてございます。

2つ目は実例を書いたチラシをつくりまして、武雄市の大型商店のほうで注意喚起をしながら、配布をいたしてございます。

それから、3つ目ですけれども、各町の区長会とか公民館長会、民生委員協議会、こういったところにお邪魔をさせていただきまして、実例を含めたお話をさせていただいていると。それと、公民館等に消費生活センターの業務案内を書きましたポスターの貼付をお願いをいたしてございます。

それから4つ目ですけれども、配達業者という関係から、郵便局長会議のほうにも出向きをいたしまして、配達されたときに、家の方がちょっとおかしいなというふうなことがありましたら、相談に乗っていただくというふうなこともお願いをいたしているところです。

それから5点目といたしまして、出前講座を積極的に行っております。地域の老人クラブの方とか婦人会、公民館関係から、依頼があれば積極的に応じているという状況でございます。非常に多発している状況でもございますので、今後引き続き、特に力を入れていきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはなかなかどうしてね、どんなに頑張っても、これまた裏をかかれたりしますので、今ちょっと副市長と話をしていたんですが、今度の来月号の市報に、これの特集を組みます、見開きで特集を組みます。その上で、ちょっと細かいことを書くよりは、さっき言ったようなことを書くよりは、ここに電話をしてください、という番号をですね、書きたいと思えます。その上で対応でどうしてもできないということであれば、これは直ちに議会と相談して、相談員を増やします。ですが、まず番号をきちんと明記した上で、電話をしていただくということをする。それとぜひきょう、これ全国の皆さんたちごらんになっていますけど、黒岩

議員も同じお考えだと思うんですけども、行政がいくらやってもこれはちょっと厳しいです。ですので、例えば、お子さんであるとか、お孫さんがね、こういったことがあるよ、と。だから、気をつけてということもあわせてこれは家族の問題としてね、とらえていただかないと、これはどう考えても――また次、送りつけから、またいろんな、これははっきり言って詐欺ですので、そういった商法が出てきますので、まずその家族で守ると。それに行政がしっかり応援すると、いうことが大切なんではないかということは思っております。ただし、行政もこれはしっかりやりますので、足らざる点があれば、大所高所から教えただけがあればありがたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今、市長の話でちょっとほっとしたんですけども、なんぼしよっとやって言いたかったですね、さっき聞きよって。先ほど言うたとおりに、お年寄りも、みんなわかっている。わかっているけどできない、という状態ですね。そのときに駆け込み寺があるのが私は行政だと思うんですよ。それはもちろん子どもさんにも言うておく。そんな幅広くしていかなんといかん。1カ所でできないと思うけども、まず、そういう人たちがおったら、一緒に解決しようと、そういう気持ちがほしいってことを思いましたが、市長が言われましたのでね。ぜひとも、そういう立場でお願いしたいと思います。

次は、IT行政推進についてでございます。まずこのナビアプリ。これは全職員一丸となって取り組まなければ、できないと思いますね。このことについて、少し難しいかわかりませんが、説明してまいりたいと思います。

これ先ほどIT行政ということで、まずこれだけは、先ほど教育長さんに言いましたけども、武雄市タブレット端末配付。4,000人ですね、教員採用試験には電子黒板。県も一緒に動いてるんですね。これは先ほど言いました、図書館に匹敵するニュースだと、私は少なくとも思います。それ以上かもしれません。それくらいの盛大なものだと。もう1つは先ほど言いました、タブレットを買える家、買えない家、その貧富の差による学問の差をなくす。これが一番大きいですね。さらにはタブレットを持っている生徒、持っていない生徒、この間のいじめをなくすと。それ教育上最も大事だったのは、IT技術者はあくまでツールの説明。後ろにおらんといかんということは教育長おっしゃいましたので、市長さんね、このことを一緒に考えていきたいと思っています。

これは市役所東ですね。以前、この話しました。杵藤電子計算センターですね。ここで、子ども手当の話しましたね、今は児童手当って言うのかな、子ども手当の話をしました。つまり19年4月までは3歳までが一律1万円と。そして3歳から小学校終了まで、これ前使ったものですよ、終了までは、第1子、第2子が5,000円ですね。それから第3子以後が、1

万円ということだったですね。これを、20年4月から、3歳から中学修了まで1万円。このときの話なんですね。このときの話を紹介しましたがけれども、実はシステム開発として、ハードウェアを増設、購入費、ソフトウェアの購入費として国から実に2,800万円やりますよと。だから明許繰越書いてありましたね。

次ですけれども、杵藤電子計算センターでは、係長なんですかね、一生懸命頑張っ、これを、980万円に抑えられた。この話しましたね、国から2,800万円くるのにですね、980万円にされた、ですね。国は全部くるけんというた後にもかかわらずも980万円で済ました。苦労されたと思うんですよ、上からタナボタですよ、それを電子計算センターでは980万円でされたということですね。これ、ここで紹介しました。つまり、予算はあるから使うじゃダメなんですね。（「そうです」と呼ぶ者あり）国からもらえても、少しは時間をかけても、必要なのは経費を節約する。この考えが必要なんですね。（「そうです」と呼ぶ者あり）経費は節約するものです。

これ私、穴あきシート、何回も出しますけども、上手にまだできませんけども、ここに窓を開ける。この窓っていうのは3次元窓っていう話ずっとしてきました。これは北海道情報大学図書館と一緒に。2次元と3次元につながるんですね。このシートを開発し、経費を削減しようということを訴えました。それは、23年の12月議会ですよ。このとき市長さんはよいソフト、アプリをつくって、可能ならば他の自治体にも提供していきたい。（「そうです」と呼ぶ者あり）さらに、それを売り込むことは税収の一部になる。こう、おっしゃったんですね。私、このことはですね、今度の図書館の指定管理者制度も一緒ですよ。もちろん病院も一緒ですよ。逆に出さないことは、税収の一部になる。また、攻撃していくことも税収の一部になる。それを市長ははっきり言われたことはここですよ。それを福祉、子育て、教育に還元していくんだと。この気持ちはですね、当時の熱意。今も変わらないのか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、全く変わらないどころかむしろ強くなっております。と申しますのも、これ一般質問で他日、議員さんが御質問されると思いますけれども、例えば新武雄病院の税収は、新武雄病院、単体で見ても、年間8,500万円いただいております。で、関連すると、はるか1億を超えます。この財源をもって今何に充てているかということ、それを今子育てとか福祉であるとか、今度のFMであるとか、そういったものに充てようというふうに。安全・安心が基本ですので、特に福祉の分野ですよ、充てたいと思っています。そういう中で病院でできた、あるいは、図書館でもいろんな人たちがお越しになって、一番多い時は7,200人の方がお越しになっています。一日で。そういった方々が、ついでに、例えば温泉に行きますと

か、例えばそこに、移り住んできたいという方々も実はもう、いらっしやいます。そういった方々が、実際お金を落とす、あるいは税金として、私たちが、貴重な税金をいただくことによって、さまざまな福祉政策に充てられるという意味からすると、それ以上に今回の黒岩議員と私が、昨年の議会で合意をしたそのアプリケーションの開発というのは、それ以上のインパクトがありますので、そういう意味では全く熱意は更に沸騰中。

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

税の話は今、市長されましたが、住民訴訟の話ですね。あれはですね、私から見ても、あと、他の議員がされるちゅうことございますけども、議決した内容をですね、訴訟を受けたんですよ。議決を尊重して、賛成、反対は別として、議決っていうのは、議会は尊重しなければならぬものなんですよ。だからむしろ止めるべきなんですよあれは。

実はですね、ある係での、保守管理費問題。ある係です。武雄市における I T 環境のよりよい満足を求めてということで、市役所の有志の方たちと一緒にですね、I T 研究グループ、一生懸命、頑張られたんですよ。何を頑張ったか。現在のシステムというのは、初期導入費用として、これは環境の質や、システム構築、つまりパソコン初期導入するときですね、環境設備あるいはシステム構築するために使うお金。問題は、保守料金のほう。これはいろんなトラブル防止のための費用なんですよ。職員さん、議員さんみんな全部知っていることですね、初期導入費と、保守料金費用は。これが保守料金というのは、繰り返しますが、ハードウェア、ハードが壊れたり、システムに動作不良が見られた場合を想定してですね、あらかじめ、前もって支払っていく料金体系のことなんですよ。こうしておけば、修理交換にかかる費用は原則無償。安く済みますよ。1年、365日、24時間業務に支障がないように対応できますよ、と売り込む。こうすれば、備えあれば憂いなしだと思いますよ。安全・安心ですよ。安心感があります。

しかしですよ、しかし。問題が発生しなくても支払わなければならないんですよ。さらには、毎年支払は発生する。つまり掛け捨て保険と一緒になんです。保障制度なんですよこれは。保障だから安全・安心ですよ。保障制度ということは、ここからですけども、これは保険契約と同じことなんですよ。言い直しますと、この保守料金というのは、このところですけども。保険契約と同じだということに、I T 研究グループは感じられた。保守料金というのは、保障制度であり、保険契約と同じということであれば、保険金というのは、事故率と保障内容で違いますね。これ誰でも知っていることですよ。交通事故だってそうでしょ。民間は、例えば無事故割引とかずっと下がるんですよ、無事故だとみんな少なくなっていく。あるいは保障無制限とか、それは大きくなる、事故率と保障内容で変わるんですよ。つまり、自分が1番合う、ここですけども、保険の選択ができるちゅうことを、I T 研究グループは感

じられた。ここまで一生懸命勉強されて分析されたんですね。そこでIT研究グループは、これをハードウェアの購入、システムの構築は業者と直接契約できる。そうすればということで、保守料金についてメーカーとの直接契約を見直されたんですね。そして最適なパターンをつくり出そうと書いてますけど、つくり出されたんですね。

つまり、ここですけども、保守料金体系をパッケージ、箱で包んでいるものではなくて、それをばらばらに分析された。ABCと分けられたんですね。Aというのはこの部分ですけども、これは、技術料、相談料、訪問料など、ハードウェアに関わらない部分。これもかなり問題点あるんですね。ここもまだ手がけられておりません。このB、C、つまりハードウェアに関する保険や部品など、このところですけども、このB、Cのハードウェアに関する保険、さっき言いました、あるいは部品代などについてですね、分析して検討されたんです。その結果、この部分を大幅に削減されたんですね。72万4,476円の経費削減を達成されたんですね。これは内訳ですけども。これ内訳ですね、どういうものだったかといいますと、これは149万4,000円これを見直して、76万9,526円にされたんです。そうすれば、72万4,476円の経費削減を達成された。これは実に、42%の削減ですよ。保守料金を42%削減されたんですよ、頑張っ、頑張っ、頑張っ。それを市長がいつも言われるように、福祉・子育て・教育に役立てたい。それができるようにね、研究グループ喜ばれたんですよ。私、これ聞きました。こうなりましたよって、よかったですね。しかしですよ、しかし、1年後は元に戻ってたんですよ。これではね、IT研究グループのね、やる気に水を差すと思うんですね。このことに対して市長は、どのようにお考えか答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

少し経緯を……

〔23番「経緯はいいですよ。中身こうでしょう。」〕

ということで、平成22年度から23年にかけてはですね、そういうことで保険契約にいたしております。これは4つのシステムを保険契約に切り替えております。通常でありますと、保守契約が一般的というときにですね、保険契約を築かれたということは、非常に画期的ではないかというふうに思っております。ただその後ですね、4つのうちの2点について、翌年、元に戻されたというのが、現在指摘された部分であります。

1つはですね、OCRシステムと申しまして、光学読み取り機ですね。これは会計処理上、毎日光学読み取り機を動かす必要があったということで、修理依頼の手続き等にちょっと時間を要したということで、なかなか間に合わないということを判断されて、保守契約に戻されたという部分と、もう1つは、図書館システムであります。導入6年目ということで、機器が部品の保証期間をオーバーする機器であると……

〔23 番「7 年契約じゃろうもん、嘘言うな」〕

ということでありまして、保守契約に戻したという経緯があります。

その結果、御指摘の保守料 149 万 4,000 円だったものが、平成 24 年には 137 万 1,000 円ということで、効果が半減どころじゃなくて十数万の削減効果という形に戻ったという状況がございます。御指摘のコストダウン。常にハードに限らず、補修、メンテナンスも、内部管理のシステムについては、研究をしながらコスト削減に努めていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

あなた業者の代表か。業者の言い分じゃないですか、今のは。7 年契約で 2 年間部品がないと、うちは部品ば買ってるとか。保険金だけ比べてみてんですか。いくら違うんですか。だからはっきりとわからないから、あなたたちは。それを分析したのが、IT 研究グループじゃないですか。業者はそう言いますよ。あとで精査しますよそれは。全く違う。私もこれを言うまではね、人の名誉に関わることだから、もっと深く調べてますよ。表に出せるところだけ出した。詳しい資料出しましょうか。姿勢の問題でしょうが、私が言ってるのは。違いますか。違いますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと一連のやりとりを伺いながらちょっと思いましたのはね、確かに私も事務方から先ほど答弁を申し上げたような中身について説明を受けました。

一方で、IT 研究グループの 1 つ言える話として、黒岩議員がおっしゃいました。ですので、ちょっともう 1 回、中で検討し直します。ですので、本当に契約の問題があるんですね。いったんは契約していてそれを履行しないということになると、債務不履行の問題にもなりかねません。ですが、できることはやります。ですので一旦、ちょっとこの話というのは、IT 特別委員会でもう 1 回話を詰めていただいて、そこで執行部と市の話ができればいいなというふうに思っております。御指摘は、よくわかりましたので、ぜひ数字の問題をあげて、あるいは契約の問題をあげて、もう 1 回、再度議論をさせていただければありがたいとこのように思います。

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

すみません。先ほど言いましたように、たしかに備えあれば憂いなしですよ。だから、私

たちから見て過大なことを向こうは持ってきている。それはいいなと思うでしょ。だからそれにメスを入れようというのは、今日の我々の話でしょ。今度4,000台入れるんですよ。そういう気持ちでどうしますか。

例えば、タブレットは壊れてもいいと、それを買い換えようと、保険についてはこうだ、システムだからこういうのを入れようと、全く新しい考えを持っていかなければ、財政たまりませんよ。そういうことがありますので、その考え方、安全・安心だから何でもいいわけじゃないですよ。あるから使うじゃないでしょ。されたでしょ、隣のね、すみません興奮しましたけど、電算センターでされました。2,800万もらってもね、2,800万は一応もらって、980万いいよと、そういう気持ちをみんな持って欲しいと、市長1人だけ持ってもだめですよ。みんながその気持ちになっていけば、お互い工夫しあえばね、いくらか安くなるんじゃないかという話ですよ。それは70万を10万で安くなったらそれはそれでいいです。思想的なことですからね。だから業者さんの言うことばっか信用せんで頑張っていこうちゅう話ですね。市長何かありますか。どうぞ。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに、それはそのとおりでありましてね、僕が一番びっくりしたのは、今度、タブレットの端末を入れるときに、ちょっと教育委員会に積算をしてもらったらね、4億かかると言われたんですね全部で。それは無理。ですが、そのうちの、2億円弱だったかな、1億4,000万から2億弱だったかな、これが実はWi-Fiにかかる、無線LANの環境にかかる、LANの環境にかかる、というふうに言われたので、そんなかかるのかなと思って、この話を山崎耕史さん、うちの最高情報統括官に話をしたところ、いや桁が違いますって。14億ですか、ふけもんと言われまして、違いますと。二、三千万円でできますと。1校で二、三千万ですかと聞いたら、いや違います、全体で二、三千万でできる事業者がいますので、それをぜひ紹介をさせてもらいたいということをおっしゃったんですね。だから要は、我々ね、言いなりになりすぎ。もうほんとに、私もICTをやりながらこう思うのは、今までの、例えば電算センターでもそうですよ。うちのパソコンもそう。決して高くはないですけど、決して安くもないです。これにいろんなベンチャーさんとかが、いろんなものを付け加えて、我々も悪いんですよ。このセキュリティーを最大限のやつをくださいというふうに言うからね。そうすると必然的に重くなって、使いにくくなっていくのが、高く出てくるので。これはやっぱり我々も言うべきところはしっかり言わなきゃいけないと。そして、ちゃんとネットワークをつくる場所はつくらないといけない、という認識ではありますので、ぜひ一回、仕切り直し、相撲でも仕切り直しがあります。そういった中で、ぜひ仕切り直しをお願いしたい、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

私もですね、市長さんね、指先一本しか使いきらんぐらいやけんようわからんとですよ。しかし理屈的には、わかりますので、ぜひそこら辺お互い精査しながらですね。みんな初めてのことだと思っうんですね。時間がないませんので、次に移りたいと思います。もう繰り返しません。ちょっと飛ばします。

これ今言ったこと、ここですね、経費は全て市民の皆さんの税金だと。これを今市長が言われたように、皆さん胸においていただきたいと思います。議会含めてですね。

3D思考の必要性についてでございます。掛け算の問題、小学校2年生ですよ。市長さん、ちょっと程度下げます。かごに3個のリンゴが入ります。大きな箱には2つのかごが入ります。2つの箱に合わせて何個のリンゴが入りますかという問題ですけども。掛け算は小学校2年、割り算が3年ですかね。かごに3つのリンゴが入ります。このかご3つ分がこの大きな箱に入ります。この箱が2つありますというときですね。そうすれば、3つずつが、ここは $3 \times 3 = 9$ というのが、9個ありますね。こっちも同じく $3 \times 3 = 9$ 個。9個と9個で。 $9 + 9$ というこっちなかですね、これはあくまで9個入り箱が2つある。3つあるか10あるかもわからん。ここ忘れてはいかんですね。単純に足してもよかろうもんじゃなかです。9個入りの箱が2つ。つまり $9 \times 2 = 18$ いうふうになるんですね。これを九九の計算表で見れば、 3×3 は、ここですけども、 $3 \times 3 = 9$ となるわけですね。つまり表で見れば、ここが3ですね、ここが $3 \times 3 = 9$ になりますね。ここは9ですね。そして次 9×2 は今度は、2枚目の計算表がいるんですね。これが皆さんが使っているアプリ、ソフト。このままで2枚目でいいですよ。皆さんわかるでしょ。そこのところですけども、今度は、改めて $9 \times 2 = 18$ とくるんですね。これを立体的に計算するんですよ。そうすれば、立体的計算すれば、 3×3 は当然9になりますよね。この9からしなきゃいかんですよ。9×上ですね9×2がこの後ろに、つまり18がくるということですね。これが掛け算の小学校のとき習うことの意味ですよ。これ大きく書いてみました。だいぶつくるのに苦労したんですよ。3×3がサザンギャウですね、ここに2をかけて、クニ、ここが18になりますよと。つまりクニ18です、連続ですね。

ここから透かして見たら、2番目のところに、これ3次元の窓とすればね、2番目のところにこれが18がくるてなるんですね。つまり掛け算の9をひっぱって見たんですね、9のところ引っ張ってもらいと、2つめが箱が2つですから、2つめが18ですよと。クイチギャウですね。1番後ろが、ククハチジュウイチでは終わりません。この3次元の窓から見れば、横ハチですね。無限大がいくんです、先まで。9かけ無限大ができる。つまり縦も無限大、横も無限大、奥も無限大、X、Y、Zが全て無限だっちゅう意味なんですね。表で見ますと、

いいですか、ここ九九の表でいきますよ。サザンガ9、ここのところにクニ、3D表示すれば、ここに18がくるんですね。これが穴あきシートの理由ですよ。つまりこれを先ほども言いました、穴あきシートにこの部分をずっと入れていけば、窓に入れば、3次元の窓やったでしょ。これが穴あきシートであるし、こういうのをつくって、開発していこうと。それを福祉、子育て、教育をやってね、こうやってずっと続いてきたと思うんですね。

色の問題。パソコンで色を探するときには、まず2次元の世界。全ての色がこの表に出ているんですね。全ての色が、これは縦と横で探せばよいわけですよ。現実には、少し急いでますけども、光の三原色。これは赤、緑、青ですね。反射することによって、赤色だから赤が反射するわけですよ。光がここに全部出ていますのでね。透明になってますけども、色が重なることによって、重なった色が出てくるんですね。虹を見ればわかるんですね。だいたい透明なものは、虹というのは、プリズムによって、赤橙黄緑青藍紫であるし、赤が1番外ですね。屈折が1番少ない。これは、夕焼け現象にも出ますね。このように色が、光が交わっていると思ってください。

今度、絵の具を見ますけども——市長さん、これ間違うとったと。この赤紫、マゼンタを今の今のほんのこの前まで、赤と思うとった。絵の具の三原色がね。マゼンタですね。これは、この議会でも間違うとるごたあですね。

つまり、赤紫をマゼンタというんですね。色を混ぜれば、すべての色ができるんですね。サザンガク、クニジュウハチと一緒にですよ。3次元ですね。マゼンタというのは、皆さん、御存じでしょうけども、せっかくですから、イタリア北部の都市のことです。それが1859年、赤紫、アニリン染料が発明されたんです。これによって全ての色ができるようになった。これはその年、イタリアに大勝利したためにマゼンタとつけたものですが、マゼンタ、黄色、空色、これを三原色ですね。この三原色を使えば、混ぜ方の度合い、つまり、掛け算の度合いと一緒に。さっきと一緒に。混ぜ方で全ての色が出る。一緒のことなんです。3次元と2次元の違いですよ。つまり3D思考の必要性は解析に役立つと思いますが、どのように思われるか、少し時間もオーバーしておりますので、よければ簡単にどう思われるか、答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱり思いましたね。マゼンタは混ぜたらいかんって。ですので、そういう中で思うのは、やっぱり3D思考そのものはすごく役立つと思います。

それと我々は実務家であります。思考家よりも実務家でありますので、それをマルチタスクという意味で、今は縦割りになっているわけですよ。職員さんが全部。たとえば国民保険の担当であるとか、市民課の担当であるとか、税の担当であるとか、それは市民からすれば、

物すごく面倒くさがられるんですね。実は、2次元どころか1次元の話をしているんですよ。

これをうまく、このアプリ、3D思考を取り上げて、1人の職員が3つ、4つ、きちんと、1人の方が言ってくるね、5つ、6つのことをそこでちゃんと答えるという背後にあるアプリケーションであり、背後にある3D思考ということであれたらね、これは混ぜたらいかんとは言いません。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

ぜひ、縦割り行政に混ぜてくださいね。お願いしますね。3D思考というのは進化していくと。そこからまた、3D。また3D思考ですね。当初、ここで言いました箱の中から、砂から鉄を抜き取るのと一緒ですね。

次は、混ぜたらいかんちゅうぎ、頭のこんがらがっけんが、よかですか。行政は市民のため、ワンストップ行政。ワンストップ行政というのは市民の皆さんが市役所に来て、1カ所も動かずに、そこで仕事が済む。そういう行政を目指そうちゅうことなんですね。市民のためのものですね。それをどのように思われるかということで、質問をいたしますけれども。

これは、市役所の窓口ですね。ただ単純にイメージ書きました。と申しますのもですね、株式会社S I I I Sの杉山社長さんが、IT行政推進特別委員会で言われたことがあるんですね。この方が埼玉県鳩ヶ谷市で何をされたか。総合窓口の研究をされたそうです。山崎さんも知ったらよかったと、言いんさったですけどね。一番最初に思ったのは総合窓口は誰のためにすつとかい、ていう話ですよ。なかなかこれが、ここから出発しなかった。この総合窓口というのは、私は実は20年くらい前から使ってるんですよ。北方町時代に松本町長さんに住民があっちこっち行くとはおかしかばいって。ワンストップって知らんやっばってんが、総合窓口ちゅことできませんかて言うたぎ、当時、松本町長さん言いさったとは、北方もんにくるわるっかにゃ。そがん頭よか、職員おらんで言いんさったですもんね。今、ITができるわけですからね。そのとき、そうおっしゃいました。そして今、総合窓口と言ってるんですけども。これは市民のためのもの絶対忘れてはいかんですよ。そうしないと、縦割りはなくなりませんからね。IT化は8割方進んでるとおっしゃった。杉山社長がね。しかし、横の連絡は全くだど。それで、これびっくりした。情報がパッケージ化されている。つまり、知的財産になっていると、ですね。そうすれば、こうおっしゃったんですね。自分の住民票ば市役所で取るとにね、金の要るとはおかしかりょうもんとおっしゃった。今まで1回も疑ったことなかった。言われた、自分のとですよ。そりゃ知的財産には金の要いばってんが、おかしかりょうもんと言いんさった。このことに対して、どのように思われるか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この関連でお話をする、私もおかしいと思いますね。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

私もだんだん市長さんに近づいたけん、偉うなった気ですけどね。

これうんざりするかわかりませんが、何十ぺんも言ってます。総合窓口ですね。ワンストップ行政。これは、住民の皆さんの要望、住民の皆さんとこれ市役所の関係ですよ。この前も言いました。窓口に来られたら、まず係から課長さん、ずっと、こう問題ごとでずうっと上に上がってくるんですよ。そうではなくて、住民の皆さんがもし、理屈ですよ。もし、これが市長さんときやったら、市長さん、なんでんでつくっけんが、それが総合窓口やろもんと。市長が下に言えばいいわけでもんね。市長さんが動く必要ないけん。これは総合窓口を、つまり、これを3D検索システムを使うことによって、総合窓口にワンストップ行政ができるちゅうことなんですよ。そういう考え方ですよ。これは転入転出届ですけども、ここの左側にある例えば、介護とか、障がい者とか、小さいですけどね。ここに書いてあるのは全て市役所の中の仕事なんですよ。それをこのスタッフナビゲーター、ここで処理しようと。ナビアプリをつくらうと。そうすれば、これがワンストップ行政ができるじゃないかと。申請者が2つ書けば申請者は両方に来ますね。異動届を出したとします。そうすれば、こちらの場合は総合窓口に来れば、ここですけれども、少し大きく上にあげますが、ここをですね、ナビアプリをつくる。そうすれば、個人個人のパンフレットができますし、一つ一つのパンフレットができますし、直ちに証明書ができる。このナビアプリをちゃんとIT化すれば、先程言いましたように、1秒間に2億5,000万通り動きますから。直ちに取れる。

しかし現実には、ここに健康課、福祉課、子ども医療なんかは支援課、保育園なんかは未来課に行かなきゃいかん。さらには税務課行かにかん。簡易申告するときね。そして、市民の皆さん、必要なところ、行かないかん。というような状態ですよ。これ、書いて怒られましたけれど、給食の申込は学校教育課行かにかんていうたらもう、給食の申し込みはせんでよかて。ということですよ。民営化されたけんか知らんばってんね。それでですよ、これボーッと書いておる。下から透かしてみれば、ビシッと分かれとつですよ。これ、いい意味では責任の分野ですよ。健康課は年金、こういうものに対してちゃんと責任を持ちます。福祉課持ちます。こう書いて、横に書いてますけど、これは縦割り行政ですよ。これを何とかしようと。ITを使ってね。そうすれば健康課、福祉課、支援課、未来課、税務課、教育課などなどですよ、これを全て電子化して、3D対応すればよいんじゃないかと。

これを立体的に考えますと、健康課、福祉課、支援課、未来課、税務課ですね。ここに受付があった。ここに白さん、黒さん、緑さんが来る。そうすれば受付が照会を受けて、白さんが健康課行ったり、福祉課行ったり、支援課行ったり、必要など行かにかいかん。あるいはまた、黒さんも必要など行かにかいかんですね。ずっと、一つずつ。そして、緑さんは、今度、連続で出しますけれども、ずーっと行かにかいかんですね。必要など回らにかいかんですよ。そうすれば、これをここじゃなくて、個人個人じゃなくてですよ、総合窓口で対応してもよかろうもんと。そうすれば健康課など1カ所にまとめて、これをつまり、白さん、黒さん、緑さんが総合窓口でナビアプリで対応するんですよ。そうすれば、これは証明書等をいろいろ発行できますよちゅうことになっていくんですね。時間がないので続けますけれども、そうすれば個人に直ちにできていきますよ。（「賛成」と呼ぶ者あり）

全ての申請書はナビアプリで対応できる。そういうのをつくろうと。市民は総合窓口に来るだけ。さらにはこれがワンストップ、市民の皆さんが動かなくてもよい行政ができる。もう少し、詳しくいきますと、実際は、健康課に行くんじゃないで、自分の用事のあるときにね、年金はここ行きなさい、障がい者はここに行きなさい、子ども医療、こっちからなんです。これを、この部分全てをもうちょっと小さくしますけど、総合窓口が下ですね。これをナビアプリをつくるために、例えば転入届を持ってきます。総合窓口に来たときに、これが、どれかにあたるわけですね。これは転入届ですけども、全ての手順書をつくらんばいかんとですね。

いろいろな仕事がある。市役所の中の仕事ですよ。これ全ての手順書をつくる。これがナビアプリ。そうすれば単純にカスタムパンフレットができますし、証明書等ができるということですね。ナビアプリ作成、当初言いましたように、全職員一丸となってしなければできないですね。先のIT特別委員会では、各課にIT委員か、配置しとりますと言われた。そこから下にいってもできないんですね。つまり、全職員さんが、自分の仕事、こういう仕事してもらおうと書いてもらう。できれば、私はここを改良してほしいということを書いてもらう。そうすれば、必ずできるんですね。このことに対して、市長はどのように思われるか答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

全く同感です。ですので、これに加えて、個人の改善箇所を提案してもらおうということと、もう1つ大事なものは、パターン化することなんです。

例えば、シロイワゴロウさんという方がいらっしゃいます。シロイワゴロウ家族が5人家族、ゴロウだから5人家族っていったときに、例えば、名前であるとか、年齢、ここ大事です。いったときにそれを書き込んだ瞬間に、たいてい行政というのは、これは例えば児童手

当がいるよねとか、言い方がどうかかわからないですが、障がい者の年金が要るとか。そこですなわちパターン化していれば、そこでできるんですよ。

これは山崎さんや杉山さんも言ってますけど、ITでそれはできるということになってますので、改善要望とともに、提携化がどこまでできるかと。これは、現場の職員じゃなきゃわかりません。僕じゃわかりません。ですので、一旦それを把握するように、一丸となる前にね、それを是非、提案してもらおうということを思っています。私は簡単に答えますけども、基本的に窓口を廃止したいと思っています。これはあちこちで言ってます。先の議会でも言いました。例えば自分の父親が亡くなったときに、窓口をたらいまわしにされて、お悔やみの言葉すらないと。あるところの市民がすごく怒って僕のところに連絡があったんですよ。それはやっぱり、血の通った行政じゃないですもんね。ですので、我々からすると、例えば、自分の父親が亡くなったんで、どういのかかわからないじゃないですか。なので、それが来た瞬間にこうです。となった時にお悔やみ申しあげますと、ともにね、これこれの書類を直ちに用意しますので、しばらくの間、待っててくださいと。ということがね、これから求められていると思いますので、これはぜひ、やりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今、市長が言われたように、死亡届けだったんですよ。きっかけだったのは。なんで待たにゃいかんとかと、届ければ、パターン化しとけば、全て済むわけですよ。そうですか、大変だったですねと窓口と言われて、本人は、今度、火葬場どがんしょうか、いろいろ考えんばいかん。そういうときに待たせられたら、たまらんと。ということで、届ければ直ちに済む問題だと思うんですよ。それができるようにするのが、ワンストップ行政になっていったんですけれども、よろしくお願ひしたいと思います。

ダイオキシン除去についてでございますけれども、これは佐賀西部広域環境組合です。ここにですね今、処理場建設が予定されているところなんですね。ちょうど道の駅から入ったところの奥のほう、一緒に工事されてるんですね。佐賀西部広域環境組合では、私と松尾初秋議員が出ておりますけども、地元の安全・安心。松浦地区のね。ちょうど、バイパスから南に入ったところですね。道の駅手前から。地元の安全・安心。そして、ダイオキシンの除去。これに力を入れてたんですね。この一件では。

ここでは200トン以上が、1立米が、0.1ナノグラム以下なんですけれども。地元の安全・安心。実は、我々が、私と松尾初秋議員が、佐賀西部広域環境組合議会議員となってですね、22年の6月議会からここで一般質問などもしたんですけれども、いろいろとやっぱり、調整のためにですね、情報のために質問しました。というのも、22年の1月29日に大体、セメント原料化方式に決まりつつあったんです。ほとんど決まっていた。しかし、私と松尾議員

の2人で考えた。どう考えても、福岡県に10億円持って行かんばいかんとですよ。灰ば、福岡県に4万立米持って行くばってん、1立米に、2万5,000円払わんばいかん。輸送費は別ですよ。どがん考えてもこれはおかしかばい、ということ、2人一緒になって広域圏議会、ここと話しながらですね。じゃあ、10億円、松浦にくるっけん、4万トンを受け取ってくれんか、という話をしたんです。そしたら、地元の議員から、いや、スラグ化してくれ、と。ということで、スラグについて一生懸命勉強してきたんですね。訴えてきました。もちろん建設常任委員会でもあちこち行きました。いろんな妨害もありましたよ。スラグ化が一番悪かて言う人もおるわけですからね。私はダイオキシンの除去なんです。姫路に行ってきました、建設常任委員会。0.000047ナノグラムに落とせるのが、新日鉄さんの、やっぱりシャフト炉だと。私いつも言うように、一流の選手は一流の監督とは思いません。だから炉をつくるのは一番かもしれませんけど、今後、維持管理に向かっていますけれどもね、新日鉄さんがするとは限らないですよ。それだけ大きくね、武雄市民の皆さん方の税金を我々からっておりますので、悔いの残さないようなね、頑張り方をしていこうと。

ダイオキシンについてですけれども、1ナノグラムというのは、10億分の1グラムなんですね。それ以下じゃなければならぬ。200トンじゃ、10億分の、0.1グラムなんですね。それくらい、ダイオキシンは猛毒である。ということでですね、飛ばしますけれども、以前、3月定例会で石橋議員が、施設の撤去があると言ったんですね。焼却炉の。これがその後、どのようになっているか、答弁を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

学校には現在、焼却炉が6つ残っておりまして、6つの小中学校でですね、あるということでございます。この焼却炉につきましては、ゴミの投入口等につきましては施錠して、そこに投入ができないと、いうことでいたしているわけでございます。

このうちですね、山内東小学校、山内西小学校、山内中学校につきましては、平成25年度の予算においてですね、撤去をしたいということで考えておりまして、残る3つの小学校につきましては、26年度以降に計画をしたい、というふうに考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

はい。これはですね、M小学校の焼却炉ですね。施錠をしておりますと今言われた。たしかに、施錠してある。燃やさんごと。しかしダイオキシンはどこから出るかという、灰から出るんですよ。ここ、見えますか。ぽーんとしようですよ。垂れ流し。水でどんどん出るんですよ。我々の知識も足らんとするんですよ。確かに、先生方燃やさんように

シャッター、よかことですけれども、灰にもダイオキシンが含まれとうちゅうことです。特に、極端に、こういうことはなかでしょう、感光紙。感光紙は特管物です。特別管理産業廃棄物ですよ。だからそういうことも踏まえて、今後とも頑張ってくださいをお願いいたしまして、一般質問を終わります。ありがとうございました。これで終わります。